

NPO☆Kyoken通信



新年号

☆特定非営利活動法人教育研究所(問題行動研究会事務局) 92号 平成21年1月10日発行

〒233-0013横浜市港南区丸山台2-26-20 TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: contact@kyoken.org

新年明けましておめでとうございます。

平成21年は会員の皆様方にとって、ご多幸の年になりますようお祈り申し上げます。

昨年度はアメリカ発の金融不安が全世界に波及し、不況が全世界に拡がりました。アメリカの政局も史上最悪といわれる共和党のジョージ・W・ブッシュ大統領から民主党のオバマ大統領に政権が変わり、平和な格差なき、世界中の人々が安心して暮らせる社会が訪れることを期待してやみません。

不況になると、私達の仕事でも出口としての就職先が狭くなりケースワークが大変になります。普通に仕事をして能力が高く、人間関係力もある人でさえも就職先がない時代なのですから、人間関係のスキルがなく、特別な技術も持たず、学力も学歴もなく、体調も優れず体力もなく、生活リズム整わず、ないものづくしで、その上、履歴が空白な若者を企業が採用してくれる訳がありません。

だからと言って放置して置くわけには行きません。ただ、ひきこもりやニートの若者の努力や根性だけに期待しても、無理な状況にあることだけは、本人や家族は認識しておかないと、焦りや不安の負の空回りだけが起こり、家族全体の機能がおかしくなってくる事もあります。

国や地方自治体、企業、様々な支援機関などの協力や支援があつて、若者は社会参加し、自立に向け生きていけるのだと思います。今年も若者の支援の輪を皆さんと一緒に拡げていきましょう。

kyoken 通信ヘッドライン

◎ NPO法人教育研究所 2009 会員の申し込み方法が変わりました。

◎ 年末年始「派遣切り」緊急救済プラン 宇奈月レポート掲載

◎ 牟田武生 生き方に悩んで「書き下ろし新連載2」

NPO法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いいただいておりますが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただきたく存じます。

昨年度の牟田先生の緊急入院に関しまして、皆様方の温かいご支援をいただき、教育研究所も何とか再建の方向で動き出すことが出来ました。牟田先生も少しずつ現場に復帰出来るまで回復し、カウンセリング、講演などの活動を始めました。

ただ、教育研究所の運営はまだ不安定な状況であり、運営の母体となる年会費を皆様にご協力していただけるよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

○ 会員の有効期間はお支払いいただいた時から、1年間の有効期間となります。

○ 今年から新しく1口以上の会員の募集も行います。

※ 1口¥5,000 (1口増えるごとに¥5,000加算されます)

※ 同封の郵便振替用紙の口数にご記入ください。

※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身の
お名前を入れてください。よろしくお願い致します。

新しく会員の申込をされる方は、下記の申込書でご連絡ください。

会費納入口座は 北陸銀行 宇奈月支店 (ホクリクギンコウ ウナヅキシテン)

名義 特定非営利活動法人教育研究所 (普) 5014010

会員の方には、

○ カウンセリング料の割引 1万5千円→1万円

○ 年5回程度の定期通信の発行

○ 講演会などのイベントのお知らせ

○ お母さんたちのミニ図書館の利用

・ 新特典

○ グループカウンセリングの割引(1口につき1回無料)

※ グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。

○ 教育研究所温泉宿泊施設(AEHビル)をご家族で利用できます。

※ 1口につき二名まで一泊無料(朝食含む)となります。(ただし、4月から11月まで)

.....

新規入会申込書 (新しく会員になる方は郵送か FAX またはメールでご連絡ください)

(郵便振替でお申込みいただく方は必要有りません)

入会者氏名	
住所	〒

郵送先 〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20

Fax 045-848-3742

「派遣切り」緊急支援

「派遣切り来年3月末までに3万人達する見込み」と厚労省が12月中旬発表し、その後、年末に8万5千人と発表を変えた。この派遣切りで仕事を失い、住居を同時に失った人は年末年始どうするのだろうか？と言う単純な問いから、人としてやれる援助をしなければならないと思ったことが発端だった。また、その人に合った正規雇用先が見つからず、派遣社員になる塾卒業者もいたから他人ごとでは済まされなかったことも事実だ。今回は牟田武生ブログに掲載したものと寮長の体験ドキュメントをお届けする。

・・・・・・・・派遣切り（捨てる神あれば拾う神有り！）支援レポート・・・・・・・・

宇奈月若者自立塾寮長 牟田光生

新年、明けましておめでとうございます。

新年は明けましたが、現場ではそんな明るい雰囲気より不安先立つ年明けでした。

TV局の取材もかなり入り大忙しの年の瀬でした。また、インタビューに答えて頂いた利用者の方達に感謝です。派遣切りなのですが合計7名の利用でした。

支援が黒部市役所商工観光課を通じ寄せて頂き本当にありがとうございました。

個人で支援して頂いた方も、お米やお野菜、漬物や衣類等本当にありがとうございます。

色々な背景を持って今回の派遣切り救済プランを利用した方々ですが、（共通していることは、帰るべき実家などが無い方々です）年齢は20代～50代とバラバラで、そのうちの5名が県外出身者でした、県外から富山に出稼ぎに来た！と言う感じではなく、最終的に切られたのが富山県内と言う感じが見受けられました。派遣切りに遭われた方は、各自必死になって自分の身請け場所を探した模様です。

年代的には45歳以上が3人も居た事に驚きました。

皆さん入居してから、携帯を片手にフリーペーパー等で求人検索と友人・知人・親類と電話をかけ、行く先を必死になって探して居られました。

なかでも沖縄出身の20代の方は弟が都市部に住んでおり、行けるメドが立ったので数日利用して退去しました。「都市部の方が仕事有りそう」と、言ってなけなしのお金で切符（希望）を買い、都市部に旅立ちました…。

我々が当初考えていたよりも、ずっと深刻な人たちが利用しておりました。とりあえず年越しだけ、というより何度も書きますが、本当に行き場の無い苦しい人達が利用した模様です。

皆さん協力的で、ご飯の炊き出し・清掃・大晦日の蕎麦打ちなど手伝ってもらい、年末年始と一緒に生活を送り少しずつ打ち解けて行きました。不安を抱えながらの年明けですが、5日に「就労相談会」を行い富山県内3社の企業の出席と、他に受け入れ可能の企業が2社有り、（元々卒塾生を雇用して下さっていた運送業・TVを見て何とか雇いたいと申して下さった建設業・黒部青年会議所メンバー全員にメールを送り、自動車修理工場・建設業・プラスチック加工業・計5社）派遣切りの方たち就職と住居の確保を目指し、開催致しました。結果2名の方が職を確保出来ました（1月5日現在）

30代の方は「こんなに良い条件他には無い」と言っていました。

雇用促進住宅が決まるまでは社長の家で居候し、給料の出るまでの生活資金も貸付も行うとの事でした。

「地獄に仏です」と。

派遣切りに合われた方達ですが、つい先程までバリバリ働いていた労働者です。

きちんと働き富山に残って働いていただければ、富山の未来を切り開く人材でもあります。

キチンと雇いたいと申して下さる会社も動いて下さいました！

物取り金取りの権利要求ではなく！あくまでもキチンとした形で社会復帰を目指し、自分の力で自分らしく

生きる！そんな自立塾のコンセプトと重なるな…と実感した正月でした。

ニートと派遣切り

その両方の方々と生活をし、明確な違いと似ている部分を考えてみました。

「就労に対しての意識」には画然とした差があるなど実感いたしました。

就労相談会での企業ブースに、派遣切りの方たちは飛びつき2名就職が決定しましたが、一方、卒塾生含む塾生の方は動けませんでした。派遣切りの人は生活が掛かっていますからね。

「労働条件」について、派遣切りで来られた方は住家も探しておられるので、厳しいのですが、条件さえ合えば基本的に仕事は何でもOKと言う姿勢が見られました。

「塾生」の方が、社会経験が乏しく社会性がない分、条件を言いたがります。年齢の差もあるので、仕方が無いことだろうと思いますが…。

非正規雇用労働者の雇用問題について、アンケートしたところ、7名中4名が個人の問題（複数回答有り）と書いてあり、派遣切りに合った方たちは責任転換せず受け止めようとしている様が見えます、自責の念も強いようです。しかし、2名の方は就労相談会を欠席しました。派遣切りのついでのマスコミにどうしても写りたくない方でした。

「手伝い」に関しては積極的にやって下さる方と、そうでない方の差が出ました。声かけをしても、どうしても交わりたくない方が1名でしたが、他の方は積極的に参加してくれました。

塾生も声をかければ動いてくれるので、その辺りは個人個人の意識かな？と感じました。派遣切りにあった方は年齢的に上ですし、きちんとしっかりした方がほとんどでした。手伝い等の作業を見ている、テキパキとこなしますし、言葉使いや表情は暗いとかではなく、しっかりとしております。こんな方達が切られる世の中で、ニートの就労支援の難しさを改めて実感いたしました。働く・生きる！と言うことに関してのハングリー差が違う中、どうそれらの事柄を塾生に、どう噛み砕いて伝えて行くか？を今必死になって思案しているところです。

新聞社のニュース記事はhttp://kyoken.org/news_paper/08news_paper.htmlをご覧ください。

追記 派遣のスパイラル

派遣住居付きで入る人は住所も当然派遣会社の寮が住所になっています。
したがって、**職を失う＝住所を失う**に直結するのです、事情があつて家に帰れない人は**住所を失う＝次の仕事を派遣以外に見つけられない…**

雇用が沢山あるのに派遣をしている人は愚かだと、ネット等で書かれていたりしますが、普通の会社は**住所不定の人は雇ってはいけません！**都市部で一部のネットカフェが住民票を有料で取らせているのもそういう事情があるからです。

故に諸事情を抱えて家に帰れない派遣労働者は今回の事があると、苦しいながらも派遣しか仕事を選べない負のスパイラルに似た構造があるのです。

派遣は基本的に**面接ではなく登録**ですから…

詳しく、知りたい方は「寮長独り言」<http://ryoutyou-blog.seesaa.net/>をご覧ください。

．．．．． 社会問題を政治闘争に利用するな！．．．．．

牟田 武生 ブログから <http://www.konayami.com/muta/>

12月18日 NHK の夜7時のテレビニュースに流れた。「派遣切り」に支援の輪が広がったことは嬉しい限りである。

25日から富山宇奈月、31日から労働団体や市民団体などで作る実行委員会が、東京日比谷公園で「年越し派遣村」が開村し、1日には派遣村が250人の宿泊希望者が出てパンク状態になり、実行委員会から相談を受けた民主党の菅直人代表代行が、舩添厚労相に電話し(朝日新聞3日朝刊)、正月2日から厚生労働省講堂に5日まで宿泊可能となり、支援の輪が広がっていることは喜ばしい限りである。

5日から全国のハローワークや行政機関が就労・住まいなどの相談や支援に乗り出すことだろう。私達宇奈月も、年越し派遣村の実行委員会も、行政機関にバトンを渡すことになるだろう。

しかし、これで終わったわけにはいかない。年越し派遣村実行委員会が、派遣切り支援の方向性を、従来の枠組みに従い、派遣切りしている大企業の糾弾や行政批判、責任政党批判だけを行い政治的に利用だけしたのでは意味がない。

無論、大企業の経営者は、競争の激しいグローバル社会で生きの残るという理由づけで、高リスク、高リターンの経営方針を掲げ、莫大な利益が上がった時は、企業留保に廻し、リスクが生じた時には、社会的弱者の非正規雇用労働者に負わせ、それでも不足すれば、公的資金という税金を投入させようと画策する姿は、経営者失格そのものの姿である。また、その構造を作った小泉元政権は何であったのか。国民として義憤に耐えないのは良く分かる。

だが、派遣切りを受けた人達は明日の仕事と住む場所がなく、生活そのものは何も改善されない。このままの状態が続けば、ホームレスへの転落を余儀なくされる。労使対立は明日の生活に困らない層やマスコミにとっては政治的に活気づくが、本当に今困っている人には手が廻らない。

派遣村の支援母体は労働団体や市民団体だ。母体団体の政治的な利用価値のために、もし、派遣切りの支援をやったならば罪が大きい。過去に不登校問題では、東京のある民間団体が日教組の一部と民主党議員の支援を受け、学校批判を行い保護者の気持ちを掴み、組織は巨大化し、批判していた団体は、その後、学校まで作ってしまった。そして、千葉県には支持を受けた知事まで誕生している。しかし、そこに通った子ども達は学校批判をまともに受け、学校に復帰出来ないばかりか、学校批判は社会批判に結びつき、社会にも出れなくなってしまった子どもも多いた。

不登校問題や派遣切りは社会問題の1つである。政治的には利用しやすい。しかし、社会問題は一番困っている被害者の救済が、何よりも大切な視点を忘れてはならない。まして、社会問題をビジネスにしようと目論む人も多く、二次災害も起こっている。

今の日本を含め世界は、政治的、経済的に四面楚歌の状態に陥っている。従来の方法論や政治力学では解決できないところまできている。派遣村事務局に新たな展開を期待したい。

地方で大企業の派遣切りに合い。地方には仕事がないと思い込み、最低賃金が高く仕事にありつけそうな東京、名古屋、大阪へ労働者は向う。しかし、大企業が集積する大都市にも仕事がない。行きの電車賃はあっても、帰りの電車賃はない。仕事が見つからなければ、大都市でホームレスになるしか生きる道は残されない。

労働者諸君、地方から都市へ、中小企業から大企業志向の考え方を止めよう。地方の優良の中小企業に正規社員として職に就き「手に仕事を付けていこう」という考え方の元に、富山宇奈月では、地元、黒部青年会議所らの協力のもと、5日に合同就職説明会を開く。年末年始の支援だけに止まらず、ハローワークなどの公的機関との連携のもと、出口と一緒に探して行こうという取組みである。

社会問題は解決するためにある。その具体的プロトタイプを社会に提供し、これからの本当の意味での社会貢献のあり方について一石を投じてみたい。

他に牟田武生ブログを読みたい方は<http://www.konayami.com/muta/>をお読みください。

NEWSその1

第19回「教師&専門家のための問題行動研修会」概要決まる！

平成21年度夏期セミナー開催日程

- ・ 東京会場（国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟小ホール）は平成21年8月24日（月）から28日（金）。
- ・ 埼玉会場（国立婦人情報会館）は平成21年7月30日（木）から31日（金）。

NEWSその2

9月27日、理事会が開催され、継続した寄付のお願いとNPO債（特定非営利活動法人教育研究所債）が発行されることになりました。また、10月11日にNPO債発行の運営委員会が開催されました。しかし、運営の鍵を握っていたNPO債は、アメリカ発の金融不安を受け、100年に1度と言われる不景気もあり、お願いを予定していた富山県を中心にした地元企業にお願いするのは難しいとの判断もあり、さらに延期することが、12月21日（日）に開かれた臨時会議（出席、橋本弁護士、安藤理事、牟田光生理事、牟田武生理事長、他1名）で決まりました。

しかし、資金ショートが1月末には再び起こること可能性が高いために、短期の融資を募ることと継続した寄付金集めを行うことが決定しました。また、橋本弁護士と牟田理事長は社団法人向け設立に動くことが決まりました。

書き下ろし

新連載倒産寸前になるまでの背景（2）

牟田武生

5、生き方に悩んで

昭和50年、当時、水俣病など四大公害事件やベトナム戦争が泥沼化し、連日メディアで報道されていた。当時、私は子ども達に「公害も戦争もない平和な世界を築くためには、どうゆう日本にしたら良いか」子ども達と考えることをテーマに教育を行っていた。

今までの戦争は資源に乏しく、工業資源求め、アジア諸国を植民地支配に置き、資源を略奪し工業の発展させていく方針に軍部が乗り、戦争が行なわれたという過去の反省を元に、戦後は大量の工業資源を輸入し、価値の高い工業製品に作り上げる加工貿易で食べている日本だった。

高度成長の波みにのり、家電製品を中心に作れば売れたが、大きな利益を上げるために、生産の拡大が余儀なくされ、拡大再生産のサイクルがどんどん早くなっていった。大量の資源を輸入し、大量生産、大量消費が美德とまで言われた。吉永小百合の映画「キューポラのある街」で描かれた工場の煙突から立ち上る煙は繁栄の象徴。臭わない、使いやすいチツ素、リン酸、カリを主成分にする化学肥料と除草剤の化学薬品は文明の進んでいる証拠。小型耕運機などの農業機械は従来の農業を変え、多くの国民は経済成長に胸をはった。

そして、重工業から重化学工業に発展を遂げつつある日本は高度成長の世界シンボルのような存在だった。しかし、工業発展のシッペ返しは、国民の健康を損なう公害病となって現れた。

当時の社会科の教科書は、農業、水産業、林業などの第一次産業や鉱工業の第二次産業から、サービス業を中心とした第三次産業への転換を促していた。その当時からのもの作りを捨て、金融、商業、営業販売などのサービス業への転換を子ども達に植え付けていく時代が始っていた。

28歳の私は「公害のない社会」を築くためには、江戸時代のように農業を中心にした完全リサイクル社会にしなければならない。しかし、江戸時代は鎖国社会であり、現代社会は鎖国社会に戻れない。江戸時代の国土や耕地面積は現代と変わらない。江戸時代の人口は3000万人弱、江戸時代に戻るとしたら、少なく見積も

っても、みんなの3人に1人は食えなくなり死ななければならない。だから、農業中心にした社会に戻ることはできない。およそ8000万人の人々は、明治時代、以降の工業化社会のおかげで食べていた事実を無視することはできない。「どうしたら良いのか?」と投げ掛けた。

子ども達は、必死に考え「公害も戦争ない社会を築くためには、アイデアや設計などを提供し、もの作りはアジアの国々で行う。日本は世界のシンクタンク化しなければならない。公害を防ぎ、ものが作れる方法も考えようと目を輝かせた。そのために、勉強しなければならない」と答えた。「勉強の苦手な人や勉強に向かない人はどうするのか」という私の次の質問には、多くの子が答えられなかった。

『良い高校、良い大学、大きな一流会社への就職、人生の保障、良い人生』という。メイン・ストリートの流れは、やがて、学歴社会を生み出し、偏差値教育を生み、農業科、商業科、工業科などの職業高校は敬遠化され、普通科に変わっていった。そして、落ちこぼれ、未塾児なる言葉が流行りだした。そんな時に、過って四則計算もろくにできなかったが、一流大学に進学した大学生の卒業生から、私は「先生の理念、公害や戦争のない日本を作るとは立派な考えで、自分もそう思うが、それでは大企業に就職できないのです」と言われた。

その言葉に悩んだ私は自分の世界観の狭さや現実社会との乖離（かいり）を考えた。そこで、塾を後輩に1年間任せ、自分の世界観を広げるために、ユネスコの非常勤職員として、アジアの教育視察のためにタイ国バンコクに居住地を移した。当時、アジア諸国は資本主義から共産主義へのドミノ倒しが起こる可能性があった。その象徴のベトナム戦争。軍部政権など様々な問題を抱えていた。戦争状態のベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマーやイスラム世界のマレーシア、インドネシア、フィリピンは様々な内戦等問題を抱えていた。飢餓のバングラデッシュ、インドの貧困など、社会的弱者の子ども達の様子を視察するために様々な国に行った。そして、様々な衝撃を受けるとともに多くのことを学んだ。自分が20歳の時に考えた民主主義の尺度としての社会的弱者の子どもや女性、障害者、老人の暮らし方によって、その国の民主主義の成熟度が分かるという考え方が正しかったことが実感できた。

民主主義の成熟が最大多数の最大幸福に繋がるのだから、やはり、教育を通し、それを実現することが自分の人生のテーマであることに気が付いた。

鶴見良行氏（アジア学者、人類学者。ベ平連。結婚前の秋篠宮文仁親王と紀子妃に影響を与える。バナナと日本人、岩波新書など）に紹介された。タイ在住の大山八三郎氏（美術工芸家、タイ・スニコロクを復元）のチェンマイの工場（陶芸、漆芸、織物などを生産するチェンマイ、タイ・ラッカーウェア社）に行き衝撃を受けた。

当時工場はチェンマイ市からサンカンペン村に行く街道沿いにあった。道路に面し、工芸作品を展示したショールームの裏に、陶芸工場、漆芸工場、織物工場が整然と並び、200人近い従業員が働いていた。そのさらに裏手には、水牛がのんびり鋤を引く、アジアの田園風景が地平線まで広がっていた。

工場では美術品と思われる高級漆器工芸品から素朴なタイの土産品まで作られていた。タイの他工場に比べ、品質管理が徹底し、チェンマイ産ブランドとして既にタイ国内では有名だった。働く人150人が社員で、50人程が1年間の見習工だった。社員になると給与が社長の大山さんと同じだった。社員の1割近くが何らかの身体障害を持っていた。そして、見習工の8割近くが女性だった。しかも、なぜか美人が多い。

17時に工場が終わると、工場の裏手の田園風景が広がる中に、ぽつんと、建つ風雅な高床式の竹で造った建物に三三五五人々が集まってきた。手には地酒や酒の肴、近くの川や池で獲ったエビや小魚などを揚げたものやもち米を蒸したものなどを持参し、心地よい風が吹け抜ける広間に社員や見習工が集まり、車座になって座り、真ん中に酒やつまみ、果物が置かれていく。

器は工場で作られた高級陶器や漆器がふんだんに使われる。誰でもが参加して良い。近所に住む会社とは関係ない農民までいる。チェンマイ語が分らぬ私にとっては飲み会だが、大山さん（ナイハン、旦那と言う意味、大山さんは社長と呼ばれずに、ナイハンとみんな呼ばれていた）に聞くと、これが会社の重役会議で

会社の方針がここで決まっていくと言うが、酒を酌み交わし、熱心に議論しているが、冗談が上手いタイ人達は、笑い声が絶えない。会社はみんなのものであり、みんなは会社が大きくなるのが、自分達の生活が豊かになることに繋がっていることが分っている。

会議終了後、「社員にも見習工にも、女子に美人が多いのは何故か？」タイ人幹部の一人に聞いてみた。「美人が多いのは元々、チェンマイは民族的に美形が多い。だから、日本の商社が経営するバンコクのソーブランド高く売れるんだよ。」

「ええ、どういうことですか？」

「美人は売春婦になって売られる運命だった娘達だよ。」

「話は長くなるけれど、この地方はもち米の産地だ。タイ国への支援として、日本政府がヒモ付き援助を行っている。日本から援助の資金が入るがヒモ付き（あらかじめ、使いかたが制限されている援助資金）そのお金でタイの政府はバンコクに日本製中古車を買わせ、交通インフラが整備されていないのでタクシーに使われ、交通渋滞が起こり、空気の汚染が進む。また、チェンマイなどの地方は、そのお金で化学肥料や中古の農機具が買われることになる。農民にそれらの肥料や農機具が、ばら撒かれるのは良いが、農機具の部品や油を買わなければならない。日本製の部品は高いから、維持するのが大変。また、今までの有機農業をやっていた農地は一時的に農業生産高は上がるが、一度、化学肥料の入った畑や田んぼは干ばつに弱い。

灌漑設備が十分でないから被害が大きい。農民は有機農業に戻りたいがもどれない。収穫は肥料や部品を買わなければ、上がらなくなる。二年も干ばつが続くと、農民には借金地獄が待っている。そこで農民達は涙をながしながら、娘をバンコクのソーブランドに 1500 から 3000 バーツ程度で売られる。（当時、1 バーツは 15 円）ソーブランドって言ったって、日本人観光客相手の売春だよ。一晩に何人も相手にさせられ、精神的におかしくなり廃人になったり、麻薬中毒になって、ボロボロになって帰ってくる娘が多いよ。

ナイハン売りに出される娘を買い、工場に住ませ見習工として働かせる。3 ヶ月目からは手当てが出る。1 年も立てば、立派な陶工や漆工、織工として自立し、社員になる。そして、家に帰り、一家の生計を立て出すんだ。工場にもそんな娘が何人もいる。中には結婚し子どもまでいる娘もいる。タイ人の女性は働き者、男は怠け者が多い。女が男を養うんだよ。しかし、男として魅力がなくなれば、すぐ離婚だよ。」

私は衝撃を受けてしまった。日本の海外援助の実態。工場であるが同時に教育機関でもあるオオヤマナイハン工場、昼休みや仕事を終えた後、若い娘が、タイ語や英語、算数、デザインの基礎を勉強していた風景を見ていたが、なるほどと思った。美しい若い娘の微笑みだけが気になっていた自分が恥ずかしかった。

学校教育を十分に受けていない不登校の子たちの学校兼仕事場を作ろうと自分の人生設計が、次第に描かれて来た。

それにしても、「むたさんは工場の人みんなに評判がいいね」と大山さんは二人になった時に言われた。

「どういうことですか？」

「日本から文化人はたくさん来た。そして、偉く感動していた。しかし、むたさんみたいに工場の工具寮に寝泊りし、みんなと同じ物を食べ、土コネをやった人はいなかった。ただ一人、土コネをやって、写真を撮らせた人がいた。小田実氏（作家、平和運動家）だがね。でも、それ以上はやらなかった。むたさんみたいに、土マミレになって働く人はいなかった。

「私もふるさと日本、何年かしたら、日本に帰って、障害者でも落ちこぼれでも、平等に働け、暮らしていくことが出来る。出入り自由な生活共同体と一緒に作りましょう。議論していても始まらない。これからの社会のショールームみたいのを作りましょう」と意見が一致した。

5 年後、大山さんと私が中心になって、富士山の麓に「南富士高原村」という美術工芸村が誕生した。そこで、作られた陶芸品や漆芸品は裏千家にも愛用されることになった。ひきこもりや不登校の経験持つ、子ども独自の才能が開き始めていたが、時代に比べ、この取組みは早過ぎたのが不幸だった。（次回に続く）

今回は「6、楽しかった平須こどもの家と三ツ沢三愛センターでの暮らし」

NEWSその3

12月21日臨時会議で自助努力として、来年度から新たな事業計画が決まりました。

1月から3月まで、生地の湧水と美味しい牛乳を使い宇奈月杏仁豆腐の商品開発を行い。トロッコ電車の動き出す4月下旬からホテルフィール前で販売開始します。(販売期間4月から11月末)
(株)ジョプロテクノの倉庫及び管理として、1月末から自立塾を使用。(ゴルフクラブの管理)
夏より、ジョプロテクノの高級ゴルフクラブのメーカーとして、製品を作り、販売開始を予定。
秋より、伝統工芸品の裂き織のランチョンマット及びエコバックの製品開発と販売開始。

NEWSその4

好評だった。文部科学省スポーツ青年局スポーツ課委託の調査研究委託事業。この調査研究によるプログラム(JOB CAMP)の2期、平成21年1月13日～19日、3期、2月24日～3月2日に富山県黒部市宇奈月温泉 AEH ビルで行なわれます。是非、参加ください。

昨年度、理事会等において討議された教育研究所再建案の内容とその現況の報告

資料その1

2009, 1

NPO 教育研究所報告と再建計画

理事長 牟田武生

1、再建案

再建には多くの困難を乗り越える力が必要であり、それには善意ある協力者がいないと、不可能の状態である。

① 初期の対応、太字が現在の状況を現す

- ・ 寄付を募る。・・・・・・ **継続して寄付を募る。**
- ・ NPO 教研債の発行。・・・・・・ **発行の時期を考える**・・・・・・ **延期。**
- ・ 宿泊債(別名別荘債)(償還義務なし、5年のもの、10年のもの)
・・・・・・ **現実的に不可能な状況**
- ・ 秋の行楽シーズンの時、満員のためにフィールに泊まらないお客様を廻してもらい売り上げをあげる。・・・・・・ **不景気により不可能な状態**
- ・ 会員企画「秋の行楽シーズン向けの旅行プラン」提供。
・・・・・・ **参加者が4名、改善する必要性有**
- ・ 理事長の厚生労働大臣賞受賞パーティへの参加企画。・・・・・・ **企画倒れ**
- ・ 会員の宿泊への呼びかけ、企業への研修会場利用の呼びかけ。・・・・・・ **実績なし状態**
- ・ 対象者(不登校生徒・ひきこもり・ニート)情宣活動とアプローチ(本業の推進)
・・・・・・ **地元富山での講演会の開催、新聞社への働きかけなど様々な工夫を凝らし、実行できるものから改善している。**
- ・ 厚生労働省の体験入塾枠の利用、文部科学省スポーツ課の研究調査の活用など、富山県や黒部市との連携を強める。・・・・・・ **協力をお願いしている**
- ・ 親会の立上げ、・・・・・・ **まだ地元での立上げに至ってない**
- ・ 教研内に対外的対応のマニュアルを作る。・・・・・・ **準備中である**

② 中期計画(来年の春、以降動き出すための準備)

- ・ 初期の寄付集め（緊急な応急処置的な対応）から、脱脚し（NPO 教研の自主的な経営努力が必要）他の不登校・ひきこもりなどの自立支援する NPO を含めた支援資金（牟田武生基金 橋本顧問弁護士命名）を設立。企業や行政に呼びかけをする。著名人グループ作り（呼びかけ人事務局親の会プラス教研。・・・・・・ **認定社団法人への改組案**
- ・ 私立学校や塾・子供会等の施設の活用。・・・・・・ **継続して準備中**
- ・ 大学生のゼミの活用。・・・・・・ **継続して準備中**
- ・ 幼児教育者・教育者相手のワークショップの開催（金子保先生協力）・・・・・・ **準備中**
- ・ NPO 教研債の発行。・・・・・・ **しばらく延期**
- ・ 独自事業の展開（ゴルフクラブの組立てなど）対象者は軽度発達障害者を含む試験を受けてもアルバイト雇用も出来ない方を就職困難者に対して行う自立支援事業の開始。
・・・・・・ **計画中ニュース2参照**

2、入塾者獲得のための活動の強化案

- ① 現在まで入塾者の募集活動はどのように行なわれてきたか。
 - ・ パンフレットを作成する。そして、あらゆる機会を通して配布する。（講演会・研修会・説明会など）
 - ・ ホームページより。・・・・・・ **出来るものから準備作成中**
 - ・ マスコミを通じて（新聞社・テレビなど）
・・・・・・ **「派遣切り」年末年始の緊急対応の結果、知名度が非常に上がった。これがひきこもり、不登校、ニート対策にも影響を及ぼすと良いと考えている。**
 - ・ サポートステーション、ハローワーク、保健所など、他機関にパンフやポスターを置かせて貰う。
・・・・・・ **各機関との連携が取れてきている。**
 - ・ 口コミ。・・・・・・ **OBや会員の皆様日より**
- ② 上記の活動をさらに強化し、安い経費で効果的にどのような情宣活動が必要か？
 - ・ 中退者が多い単位制高校・定時制高校・専門学校への説明と担当者に対してパンフの配布。
・・・・・・ **訪問し担当者と話し、パンフを置かせてもらっている**
 - ・ サポートステーションとの連携の合同説明会に実施。・・・・・・ **準備中**
 - ・ ハローワークの窓口職員に対しての「若者自立塾とは」の説明会の実施。・・・・・・ **準備中**
 - ・ 黒部・魚津・滑川・朝日それぞれの市の民生委員・児童民生委員への説明会の実施（各市への働きかけ）パワーポイントを作り誰でもプレゼン出来るようにする体制の整備。・・・・・・ **準備中**
 - ・ 富山市で県の後援を得て講演会
・・・・・・ **実施している。詳しくは http://kyoken.org/news_paper/081222toyama.gif をご覧ください。**
 - ・ テレビ・新聞社でこの問題の特集を作るための働きかけ。・・・・・・ **準備中**
- ③ その他の活動
 - ・ 活動内容がひと目でわかるパンフ作り（イラストの多用）・・・・・・ **HPに特設欄を作った。**
 - ・ AEHビルがどのように利用されているかのパンフの作成（イラストの多用）・・・・・・ **準備中**
 - ・ 卒塾生の卒塾文集の作成（ホームページにも掲載）許可を得る。（匿名可）・・・・・・ **準備中**
 - ・ 体験入塾専用のパンフの作成（文部科学省スポーツ課でも同時に使える）・・・・・・ **作成した。**
 - ・ 厚生労働省の監査のオスミガキと大臣賞をどう表示するかを検討と公表。・・・・・・ **HPやパンフ掲載**
 - ・ 富山にも親の会の支部を作る。・・・・・・ **準備中**

3、会員及び寄付者特典

- ・ カウンセリング（1 時間）一般 15000 円、会員及び 10 万円以上の寄付者（以下高額寄付者）・・・・・・ **実施中**

- ・グループカウンセリングを含めたその他の行事参加費は2割引。実施検討
- ・AEHビル宿泊費（一泊大人1名）、一般5150円（朝食なし）、会員4000円（家族を含め、朝食付）高額寄付者3000円（家族を含め、朝食付）、別荘債券者、管理費2000円（家族を含め、朝食付）とする。・・・・・・**実施中**
- ・教研主催講演会特典者は無料、一般は有料。・・・・・・**検討中**
- ・特典者は教研通信の無料配布、図書館の会の利用可。・・・・・・**準備中**

文責 牟田武生

2009、1、10

1、緊急特別号における寄付のお願いと報告

※ 皆様方の善意により以上の寄付金が集まりました。ありがとうございました。

平成20年12月31日現在 寄付金総額 9,063,988 円 寄付者人数 263名

（注）12月末に確認できるもののみ

2009年「特定非営利活動法人教育研究所うなづきの活動案内」

・**若者自立塾**・・・3ヶ月の共同生活の中で、生活リズムの改善、人間関係のスキルを向上させ、ビジネスマナーを身に付け、様々な就労体験を通して、働く意欲を身に付け、自立することを目指します。当塾は、日本有数の設備、就労体験の豊富さ、温泉設備、ニューオータニホテルで12年間のシェフの経験がある専門料理人、有数の正社員雇用率、修了後の様々なフォローなど充実しております。

個人負担分（寮費）3ヶ月間で200,000円～300,000円、訓練費は国の負担（3ヶ月間270,000円）になります。年間世帯収入が400万以下の低所得の方は個人負担分3ヶ月間で150,000円～200,000円になります。（ご相談下さい） **【定員 20名】**

※ 2009年4月より、6か月コースも始まります。

・**宿泊型フリースクール**・・・20年を越す通所施設の実績を基に民間施設「教育研究所」が生まれ変わります。今の不登校のタイプは通所型では長引くばかりで効果が上がりません。不登校への対応の基本は、不登校が長期間になると、本人の人生にその後、マイナスの影響を及ぼすために、なるべく短期間に再び不登校・ひきこもりにならないための対応が必要です。最近多い親子の共依存関係から離れ、自立することを目指します。

3ヶ月コース、6ヶ月コース、1年コース、高卒検取得コース、富山の県立・私立高校通学コース、地元中学転校コース、留学コース（カナダ、台湾、タイ、韓国など）、

子ども一人ひとり応じたコースを用意します。

費用、寮費、教育費、カウンセリングなど、月210,000円。（ケースワーク費用・留学費用は別途になります） **【定員 中学生6名、高校生年限の者10名】**

・**ネット依存**・・・ネット依存に陥ってしまった若者に現実社会の豊かさを学び、ネットに対して自己規制出来るようになるためには、共同生活の効果が非常に高いということが分かってきました。ネット依存の日本初めての本格的な治療コースです。プログラムは治療から学校及び社会復帰まで含まれています。状態に応じて3ヶ月コースと6ヶ月コースがあります。

費用、寮費、教育費、カウンセリング。月210,000円（ケースワーク費用は別途になります）

【定員 10名】

- ・ 短期体験合宿・・・5泊6日の体験コースです。基本的には各コースの入塾のための体験合宿です。

(年4回程度) 35,000 円、 【定員 6名】

※ 厚生労働省の入塾体験費用が適応できます。(詳しくは事務局にお問い合わせください)

- ・ 自立塾OBのフォローワーク

コース	内容	寮費(1ヶ月)
A	カウンセリング&ケースワーク+生活指導+就労体験+就職支援(全てを含むケア)	145,000 円
B	就職活動&アルバイトの世話、ケースワークなど	100,000 円
C	寮からの正規就労(3食付き)	70,000 円
D	フィール宇奈月(従業員寮・個室)からの正規就労(食事なし)	35,000 円

※ 寮費の中には、食事代、寮費を含みます。(Dコースは食事代別です)

その他アルバイト&就労している方には布団使用料月 1,000 円、駐車料月 1,000 円(別途)が掛かります。

短期体験合宿以外の上記希望者は随時受付をしています。(但し、事前面接が必要です)

※ 各コースとも定員になり次第締切ります

- ・ 保護者のための研修会 (1泊2日)とグループカウンセリング(日帰り)

子どもや若者への対応や親としてやらなければいけないこと、子どもの再登校、社会復帰のためにしなければならないことを集中的に学びます。(年3回程度) 18,000 円

若者自立塾以外は合宿所として富山県黒部市宇奈月温泉「NPO教育研究所AHEビル」を使用。

◎教研からの案内

- ・ 牟田先生のカウンセリング・・・再開し、随時予約受付を現在行なっております。(横浜事務所) 富山では宇奈月滞在中に行なっています。(要予約)
- ・ 牟田先生の講演・・・・・・3月より始めて行きます。
- ・ 牟田先生のグループカウンセリング・・・横浜・宇奈月とも4月より再開して参ります。
- ・ 牟田先生のケースワーク・・・4月より再開します。

いずれも体調を見ながらの再開になります。急に変更が起きる場合もありますから、ご承知置き下さい

◎ 継続して寄附を求めています

専用寄附口座 横浜銀行 上永谷支店 店番号 323 口座番号 1442822

名義人 特定非営利活動法人 教育研究所 (寄付) 理事長 牟田 武生

若者自立塾の現地個別相談・説明会開催のお知らせ

日 程：平成21年2月8日（日）、2月22日（日）、3月8日（日）、3月22日（日）

時 間：午後1時から午後5時まで

場 所：富山県宇奈月若者自立塾

※ いずれも予約が必要、個別説明会は045-848-3761（教育研究所）現地説明会は0765-62-9681（宇奈月若者自立塾）まで電話予約してください

※ 自立塾については 財団法人 社会経済生産性本部 若者自立塾支援センター
<http://www.jiritsu-juku.jp>をご覧ください。

ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方（英語・数学・国語）

カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方。

時間講師募集中、高卒検程度の教科指導できる方。

技術をお持ちの方で、定年退職され、その技術を若者に伝え、若者の自立支援に役立ちたい方

第1期ジョブキャンプ報告

11月4日～10日で第一期のJOB Campを行いました。

総勢15名の参加で行われ、内1名が自立塾へ入塾となりました。

ソフトボール大会・カラオケ懇親会・CAD研修と大いに盛り上がり、盛況でした。

1月13日から第二期のJOB Campが始まります。

まだまだ参加枠に空きがございますのでご参加下さい！

☆お母さんたちの交流会のお知らせ☆

「毎月5～6人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」（卒業生の母より）

- ・同時に親の会ミニ図書館を開催。
 - ・会員の方ならどなたでも利用可。
 - ・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が300冊以上あります。
- ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。
毎月第4土曜日午後1時から4時頃まで
NPO教育研究所横浜事務所にて
参加希望者は教育研究所までお願いします。



親会だより

新年明けましておめでとうございます。

教育研究所はNPOから認定新公益法人をめざし、活動を開始致しました。ご支援を今後ともお願い申し上げます。社会的立場や公益性、実績については何にも問題がありませんが、財政的に極めて脆弱です。安定した財政状況を作り出すためには、大企業から寄付を頂く必要があります。そのためには、NPOでは弱く、認定新公益法人に変わる必要があります。橋本弁護士と牟田理事長そして各理事は、今年1年を目途にして頑張っ

て行こうと考えております。会員の皆様もご協力お願い申し上げます。

そのためには、
寄付の継続的受付、会員数の倍増、不登校、「ひきこもり、ニート」から脱出した体験記（保護者でも当事者でも可）ボランティアなどを求めています。協力出来ることからやってみましょう。

教研には多くの年賀状が寄せられています。

大変多くの方々が、牟田先生の病気の心配をされています。

先生は暮れに「派遣切りと年末支援について」NHKTV放送でコメントを出し元気な姿が拝見できました。今回は牟田先生から特別にコメントを頂きましたのでご紹介いたします。

「去年は公私共々、大変多くの方々に支えられて乗り越えることができました。本当にありがとうございます。この御恩はいつの日か御返ししたいと思っております。お陰様で元気で正月を迎えることができました。たぶん、神様が、困難を抱えている子どもや若者にために、「お前はもっと働け！」と言って、命を生かせていると思っております。命が続く限り頑張りたいと思っております。今後とも、御理解ご支援ください。」

なお、「牟田武生ブログ」に闘病日記が掲載されています。是非お読みください。
<http://www.konayami.com/muta/>

親会有志より

教育研究所 卒業生の起業紹介のコーナー

☆窪寺麻美さんの『ル ベールクレール』

センス溢れる彼女らしい癒しの空間としてのアロマの店です。

ホームページをよく見てくださいね！

<http://home.v06.itscom.net/v-clair/contact.html>

Eメール vertclair@v06.itscom.net

☆功刀晃浩君の会社『ロジック ギアーズ』事務所

功刀君はプログラマーとして独立しました。

ホームページを見てください。

<http://logicgears.jp/infomation.php>

info@logicgears.jp

起業されている卒業生の皆様を応援し、ネットワークを広げていきましょう。

掲載希望の方は教研までメールをください。お待ちしております。

教研メールアドレス contact@kyoken.org

※ 平成 21 年 1 月～3 月スケジュール

1 月	13 日 (月)	第 2 期ジョブキャンプ開始	富山県宇奈月
	18 日 (日)	理事会 (横浜)	教育研究所丸山台事務所 午後 1 時半から 3 時半
		講演会・個別説明会 (富山)	富山県黒部市民会館 午後 1 時から
	19 日 (月)	第 2 期ジョブキャンプ終了	富山県宇奈月
	25 日 (日)	講演会・個別説明会 (横浜)	ウイリング横浜 5F 503 号室 午後 1 時 30 分から
2 月	8 日 (日)	現地説明会	富山県宇奈月若者自立塾
	22 日 (日)	現地説明会	富山県宇奈月若者自立塾
	24 日 (月)	第 3 期ジョブキャンプ開始	富山県宇奈月
3 月	1 日 (日)	講演会・個別説明会 (富山)	富山県黒部市民会館
	2 日 (月)	第 3 期ジョブキャンプ終了	富山県宇奈月
	8 日 (日)	現地説明会	富山県宇奈月若者自立塾
	21 日 (土)	講演会・個別説明会 (横浜)	ウイリング横浜 5F 503 号室 午後 1 時 30 分から
	22 日 (日)	現地説明会	富山県宇奈月若者自立塾

◎ うなづきだより

新年明けましておめでとうございます。

宇奈月温泉街でも雪が所々に積もり、雪のシーズンを迎えております。

今年から請けることになった宇奈月温泉スキー場のリフト係のアルバイト (4 名) は雪不足でオープン出来ずに立ち往生しております、新たな求人を探していこうかと考えて居る最中です。

新たな求人、と言う事で別面にも載せましたが「派遣切り」の救済プランとして「就労相談会」を実施した所、様々な求人が寄せられ、自立塾としての企業受け入れ先はまた増えていったのは大きな収穫です！

その中でも、今回の「就労相談会」に来て頂いた富山市内の運送業者 (株) 初芝 で自立塾の OB が 1 名働いております。

その OB 「F さん」は、入社 1 年位で、現在彼は一日辺り、120 個以上の荷物の宅配をこなしております。一軒家が多い富山で 120 以上とはベテランの数値で、会社でもトップから数えた方が早い位置 (成績) に居るそうです！ (私自身大学時代、某大手運送業者でアルバイト・契約社員をしていましたが、中々個人宅配で団地の無い地域では非常に難しい数値です) と OB の活躍は本当にうれしい限りです。

前回にも乗せましたが、卒塾生でつまづいている方が居ましたらもう一度宇奈月温泉で頑張ってみませんか？

現在雇用促進住宅への入居は可能な状態でもあります。(そのためにはまずは職を！)

正社員への条件はいくつかあります（あいさつ・生活リズム・コミュニケーションスキル・等など）が、都市部より、地方の方が正社員に就くのは可能だと我々は実感しております。

不況に強い産業・企業もあります！

新年に入り、自分の人生をもう一度取り戻すには今が実はチャンスです！

新たなアルバイト・正社員への道もありますのでお気軽にご連絡を！

「自分らしく生きる」その為の土台作りのお手伝い！

自立塾ってそんな所です。

宇奈月自立塾 牟田光生

編集後記

皆さんからお預かりした寄付金で9月危機を乗り越え、その後に続く第2段としての教研債は、世界同時不況の猛烈な嵐の吹き、現時点での社債集め（利益 {利子} を目的にしないが、元金は保証する社会企業債）は、現在は困難であると暮れに判断しました。短期融資で乗り切ろうと考えていますが、誰がNPOに融資してくれるのか目途すら立たないのが現実です。このまま行けば、資金ショートがこの冬、再び起きます。

NPOは、自助経営努力と会員の力によって支えられるのが本来の姿です。会員を増やす、会員のためになる。それが牽いては社会貢献に繋がって行き、人々の暮らしのセフティーネットの一部として機能していくことが本来の姿です。

組織を維持し、皆様の暮らしの安全のために機能していけるように様々な方の支援を受け、ほとんどのスタッフが無給の状態で、正月も返上して頑張っておりますが、今一つ力が及んでおりません。継続して会員になってください。また、新規に会員になってくれる方をご紹介ください。お願い致します。また、会員は1口以上ですので、何口でもかまいません。（事務局）

全世界で猛烈な不景気の嵐が吹き始めている。危機的でもある。しかし、危機は人為的なものであった。予想はしていたが、備えは皆無の状態であった。自然災害ならば諦めも付くが、人災では諦めようもない。さらに、世界を揺るがす人災を招いた張本人達は、その責務を放置しているかのようにも思える。そして、社会的弱者がボロ籤を引き、仕事も住居も失う。

豊かな先進国の日本であるはずが、労働保険、健康保険にも加入出来ない、短期間の仕事をこなす、非正規雇用労働者は労働者の全体の3分の1、20代では2分の1に達する。そのほとんどがとはいわないが、セフティーネットに入れない。与野党の政治家は今まで何をしてきたのか。国民の暮らしのことを考えずに党利党略のことだけ考えていなのではあるまいか。

民主主義の世界に生きていたはずなのに人権すら保障されていない世界に住んでいたのかと唖然とするばかりだ。

今こそ、危機を乗り切る英知を今発揮しよう。対立よりも協調して危機を乗り越えよう。（ム）